

豪州での室内環境学関連の学会活動と関連研究の動向など
第3回：室内環境に関する研究者・研究室など

伊藤一秀

九州大学総合理工学研究院
〒816-6580 福岡県春日市春日公園6-1Recent trends of academic activities related to indoor environmental
studies in AustraliaPart 3: Academic Researches/Laboratories related
Indoor Environment in Australia

Kazuhide ITO

Interdisciplinary Graduate School of Engineering Science, Kyushu University
6-1 Kasuga-koen, Kasuga, Fukuoka, 816-8580 Japan

大学での人事を行う際、研究業績やら教育実績、社会貢献の度合いを頑張って定量化し、相互比較する。教育実績や教授能力(ふんぞり返って威張り散らすという意味ではなく、本来の教え授けるという教育的な意味)の定量化はそもそも難しいものである、とコンセンサスがあるように思うが、研究業績の定量評価も困難である。論文数であったり、被引用回数であったり、科研費の獲得総額であったり、を考慮しながら何とか定量化を試みているのが実情であろう。しかしながら、研究者の能力を評価する最も適切で確実な方法は、同分野の同業者にインタビュー(本来の意味でのPeer Review)してみることで、共通して名前の挙がるヒトがやはり優秀である(少なくとも研究が非常に出来たととしても、人間的に問題のある方は組織運営上遠慮願いたい、と考える場合も多いと推察され、この場合はインタビューによるPeer Reviewは最良の方法であろう)。

この非常に主観的ではあるが信頼性の高い方法で、豪州の室内空気環境と熱環境に関連した有力な研究者を聞いて回ったところ、空気環境系ではQueensland University of Technology (QUT)のProf. Lidia Morawska、温熱環境系ではUniversity of SydneyのProf. Richard de Dear、の二人が共通して名前の挙がる豪州のLeading Scholarであった。更に、豪州での日本に関係の深い研究者というフィルターをかけてみると、SydneyにあるAsbestos Diseases Research Instituteの所長であるProf. Ken Takahashi (高橋謙先

生、前産業医科大学教授)のお名前が挙がる。

本稿では、この豪州を代表する3名の研究者、Prof. Lidia Morawska (QUT)、Prof. Richard de Dear (Univ of Sydney)、Prof. Ken Takahashi (ADRI)の研究室の活動などを簡単に紹介したい。

(1) Prof. Lidia Morawska (research.qut.edu.au/ilaqh)

Prof. Morawskaのグループ(International Laboratory for Air Quality and Health - Queensland University of Technology)は、WHOと協調して研究室運営しており、Air Qualityの分野で世界的に有名で、巨大な研究グループである。一般の大学の一研究室と比較するとスタッフ数も桁違いであり、ボスのProf. Morawskaをトップに、博士号を持つアカデミックスタッフが7名、その下に博士課程学生が大量に張り付いている。正確な博士課程学生数を聞きそびれてしまったが、Children's Healthに関する研究プロジェクトだけで6名の博士課程学生が従事しているとのこと。Prof. Morawskaの研究グループは、エアロゾルサイエンスを中心に空気質と健康の問題に取り組んでおり、一つの研究グループの中で物理、化学、生物学、医学などの異なるバックグラウンドの専門家が協力する学際的な体制が維持されていた。

QUTは豪州Brisbaneの中心街の、本当に真ん中に立地している。すばらしい立地条件であることの功罪が共存しており、都心の大学キャンパスとしての魅力があるものの、キャンパススペースには制約が

あり、よく言えば効率的に整理された高層棟から成る大学である。

(2) Prof. Richard de Dear (sydney.edu.au/architecture)

Prof. de DearはAdaptive Comfortの提唱者の一人として我が国でも非常に有名な研究者である。精力的に研究成果が発表されているが、個人的には、一つ一つの研究論文が非常に丁寧に作成されているとの印象を持っていた。Univ. of Sydneyの彼の研究グループは非常に小規模で、ポスドクと博士課程学生を含め、わずか数名である。建築学科の所属であり、(ご本人曰く)講義負担も多く、また学生の大学院進学率も高くない(デザイン志向の修士は一定数在籍しているようであるが、研究志向の進学学生は非常に少数派)とのことで、(ご本人曰く)研究を推進するにはそれほど良い環境ではない、とのことであった。このような状況であっても世界をリードする研究成果を継続して発表することが出来るのは、やはり個人の力量に依存するのだと感じる(講義や関連雑務が多すぎて研究できない、と言い訳している自分自身を反省...)

シドニー大学は豪州最古の大学であり、約180年の歴史があり、古い建物は、英国のオックスフォードの建築群を模倣して建設されていることのこと。シドニー中央駅からも何とか徒歩圏(2 km弱)でもあり、立地にも恵まれた素晴らしい大学である。

(3) Prof. Ken Takahashi (adri.org.au)

豪州は世界的にもアスベスト由来の悪性中皮腫の患者数が多い国と云われている。このアスベストに関連した疾病に特化した研究組織として、2009年、シドニー郊外にAsbestos Diseases Research Institute (ADRI)が設立されている。この研究所はNPOであるAsbestos Diseases Research Foundation (ADRF)からの資金援助で運営されており、また、Univ. of Sydneyの関連研究所としても位置付けられている。2017年からこのADRIの所長として高橋先生が着任されて

いる。ADRIは研究者、バックアップスタッフを含めて総勢30名弱の組織であり、アスベストに特化した研究機関としては世界でも有数の研究所。高橋先生曰く、「着任後はガバナンス関連のゴタゴタ対応が多く、なかなか研究に専念する時間が取れません」とのことであったが、豪州特有の様々な制約と闘いながら、この研究所を高橋先生が陣頭指揮されている姿を拝見し、同じ日本人として非常に誇らしい気持ちとなると共に、日本語大好き(英語が嫌い)で内向き思考になりがちな自分自身を反省する機会となる。



Prof. Ken Takahashi先生と共に、
ADRIのエントランス前にて

さて、海外でのサバティカルとは、研究に集中できる素敵な時間を享受できることに加え、異国の地で新たな出会いに恵まれることでもある。様々な研究者と話をすることで、感動したり驚愕したり安心したりするが、特に、トップ研究者を紹介する記事をまとめるということは、自分自身の至らなさ(小ささ)を客観的に見つめることでもあり、まさに苦行、(彼我の差に)かなり落ち込んだ。